

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会会報
編集人 田村佐起三〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話（〇七五）二五三・〇七〇七

『揺れる情（こころ）』通信⑭

稲荷山武田病院院長 土屋寛之（京都医療センター緩和ケア創設者）
紫式部さんは『紫式部日記』の中で「もののあはれ」とは最も趣の多い言葉と言っています。

また、式部さんは日記の中でそのころの自分の心の状態を「過去を悲しんで灰色になっているころ」という表現をしています。こういう表現に出会いますとあたかも式部さんと同じ部屋にいて、会話を楽しんでいるような錯覚に陥ります。式部さんは更になんでもないことでも忘れられないことがあるとか、悲しみに疲れた心はほとほと絶望の頼りなさに近い思ひをするとも言っています。中宮様の出産のシーンで月が佳くていかにも秋の末らしい心もちの味わわれる夜と表現しています。

情（こころ）は喜ぶことも疲れることもあり、その人が自分の情（こころ）・感情（動くこころ）に全身で打ち込んでいるところに「もののあはれ」は生まれてきて存続するのでしょうか。

京都国立博物館

《密教図像の美》

8月7日～9月8日

戦後、医業のかたわら密教図像の蒐集に尽力し個人としては日本最大級のコレクションを形成した故上田治氏。このたび、ご遺族よりこの貴重なコレクションの大半を当館へ譲渡・寄贈いただいたことを記念し、長らく公開の機会を得ず幻のコレクションとなっていた作品群を展示いたします。上田コレクションは多くが平安・鎌倉時代の作品で占められており、伝来が明らかで歴史的価値だけでなく美術的価値も高いものです。この機会に密教図像の魅力に気づいていただければ幸いです。

※平安時代までの仏教の特徴はあくまで天皇や貴族が中心であり地位が高い人だけの仏教であったが、鎌倉新仏教の特徴は「信仰のしやすさ」があり、かつ1052年を末法元年として捉える「末法思想」を背景に実際に地震、飢饉、疫病が多発し二度の元寇の脅威があり、五十回もの元号改元を行うほど人々が苦しめられていた時代を背景として庶民、武家にまで広く広まった。

《統一化されること》 常楽臺住職 今小路覚真

マイナンバーカードの普及に、さまざまな仕掛けがなされています。運転免許証や健康保険証との一体化もなされようとしています。

不思議です。こうした多くの仕組みが一枚のカードで納まることを、選挙民の多くが望んだことなのではないでしょうか。どうにも腑に落ちません。一部の政治家だけが、何かの都合で言い出し、言い出したかぎりはやり遂げなければ、と、それだけで進められているように見えて仕方ありません。

あらゆる情報の一元化、一体化はある人には都合のいいことですが、ある人には大変迷惑なことでもあるのです。

一つの便利を求めると、一つの不便が生じます。仏教といわずキリスト教といわず、本来なら宗派などという多様な窓口は不用で、一本の道筋でいいはずですが、限りなく選択肢があり続いています。人間の多様性のあらわれた姿です。わたしはマイナンバーカードは持っていません。

《チーズの種類》

イタシヨク 福村直

チーズの歴史は長く世界中には個性様々800種類以上存在しています。しかし作り方は共通している部分がたくさんあり、基本的には乳の中の脂肪分と蛋白質を固めた食品なので、両方を含めばどんな乳からでもチーズを作ることができます。

ただしある程度の量を集めることができる家畜乳という観点から、現在では原料となるのは牛乳、山羊乳、羊乳がほとんどで、地域によっては水牛や馬、ヤクの乳も用いられています。また熟成させることにより酵素等によって蛋白質や脂肪分が旨み成分であるアミノ酸や脂肪酸に分解し、乳そのものには無い色艶、風味、味わいが出てきます。熟成に必要な期間は作るタイプにより異なり、フレッシュタイプは凝固してそのまま。ソフトタイプは短く、ハードタイプには2年以上熟成させるものもあります。

健康レシピ

栄養士 國松美也子

《今月は夏の旬野菜！オクラレシピ！》

簡単にできるので、あと一品欲しいという時にぴったり。オクラは夏バテ・疲労の原因となる乳酸の生成を抑制が期待できるクエン酸も含まれてネバネバのもとにはムチンとペクチンです。ムチンは複合たんぱく質で胃粘膜の保護やたんぱく質の消化促進、整腸の働きがあります。ペクチンには血中のコレステロールを減らし血圧を下げる効果があります。

オクラのポン酢和え（2人分）

オクラ8本：ゆがいて1/3にカット
えのき1/2パック：1/3にカットしゆがく。
オクラ、えのき、ポン酢大さじ1を混ぜ合わせる。
盛り付けて鰹節をのせる。
（ポン酢の代わりに白だしでもOK）

《大原流声明雑話②》 實光院住職 天納玄雄

梅雨の時期には夏安居といって夏の修行期間がある。天台宗では回峰行者たちの葛川夏安居が有名だ。

安居が明けると、いよいよお盆がやってくる。安吾が済んだ僧侶に供養することで功德を積み、その徳を先祖に追善回向する儀礼だ。インドで生まれ、日本の風俗と合わさって現代のお盆が成立した。

回向には、まず自分自身が功德を積むことが肝要だ。墓参りをし、仏壇を清め、供物を調え、灯明を点し、香を焚き、僧侶にお布施をして、読経を聞き、一緒に手を合わせて念仏する。いずれも施主や参列した者が徳を積むためのものだ。僧侶はその徳を「回向文」によって当家の祖霊へお供えるのだ。